

梨部会 「菊池梨」販売中 (10月下旬まで)

梨「秋麗」出荷前の目ならし会を8月5日、北営農センターで行いました。糖度検査や重さ、色味や食味を確かめ、出荷日・出荷規格を確認。食味も良く、糖度も乗って、品質良好で8月7日から出荷が始り、「秋麗」は8月下旬で終了。9月からは品種を変えて10月下旬まで、農産物市場「きくちのまんま」、経済連「you+youくまもと」などで販売しています。

(担当 石原)



糖度検査



色味や食味を確認

鳥獣被害防止は地域で対策を

JA菊池鳥獣被害防止対策研修会を8月4日にパシオンで開き、JA熊本中央会が行う熊本県農業鳥獣被害対策事業の申請者56人が参加しました。県北広域本部農業普及・振興課よりイノシシの習性や取り組むべき対策などの説明があり、「電気柵などを設置し個別で対策することも大事だが、地域で対策しなければ根本的な対策とはならない」と地域ぐるみによる対策の重要性が示されました。林務課から「くくりわな」「はこわな」などによる捕獲のポイントについての説明もあり、狩猟事故や猟具の取り扱い上の注意事項などを学びました。参加者は「これまでの電気柵の設置方法や使用方法が間違っていたことが分かった。正しく設置し、今後もしっかりと対策を行いたい」と話していました。



べき対策などの説明があり、「電気柵などを設置し個別で対策することも大事だが、地域で対策しなければ根本的な対策とはならない」と地域ぐるみによる対策の重要性が示されました。林務課から「くくりわな」「はこわな」などによる捕獲のポイントについての説明もあり、狩猟事故や猟具の取り扱い上の注意事項などを学びました。参加者は「これまでの電気柵の設置方法や使用方法が間違っていたことが分かった。正しく設置し、今後もしっかりと対策を行いたい」と話していました。

〈地域ぐるみで「えづけSTOP!対策」に取り組みましょう〉

ステップ1: みんなで勉強 ステップ2: 守れる田畑・集落づくり

ステップ3: 囲いや追い払い ステップ4: 有害鳥獣の捕獲

※対策に取り組むうえで、誤った順序で進めると将来的に効果維持が難しくなります。上記のステップで取り組むことが重要です。

水稻防除ドローンで散布



菊池市の農事組合法人袈裟尾は7月31日、ドローンによる防除作業を行いました。高さ3mから薬剤を散布し、2人のオペレーターがトランシーバーで声をかけ合いながら作業しました。昨年、ドローンを導入し散布事業が2年目を迎え、作業時間が従来の2分の1となり、省力化につながっています。法人代表の上野洋一さんは「年々作業の依頼が増えている。もう一台導入し、さらなる効率化を図り、地域の安定した米づくりに貢献したい」と意欲を示しています。オペレーターの奥田奨さんは「民家が近い圃場では特に注意し、丁寧な作業に心がけている」と話しました。

※同法人は農作業受託を中心に経営する農事組合法人。作業の効率化のためドローンを導入し、構成員2人が免許を取得。水稻の他、麦や水田ゴボウにも活用する。70haの作業を受託。